

令和 5 年 7 月 12 日

令和 5 年度前期授業アンケート結果について

IR 室

標題の件、以下のとおりご報告いたします。

記

1. アンケート実施内容

- (1) 授業アンケートは授業をより良くすることと、学生自身に授業への取組を振り返ってもらうことを目的として実施している。また、授業の担当教員とコース主任の教員が内容を確認し、今後の授業改善に繋げる手法について検討している。

具体的には各設問に対し、学生は 0～4 の番号で回答する。

4…とてもそう思う

3…ややそう思う

2…普通

1…あまり思わない

0…思わない

従って、数値の大きい方が評価が高い。

(2) アンケート内容

令和 3 年度の改組に併せ、DP (学位授与の方針) 自体を見直し、『DP1～5』から『DP1～6』の形式に変更している。

特に関連性の強い DP をカリキュラムマップ (一覧表形式) 上で◎や◎*で表記する形式にし、学生が理解しやすい表示とした。本学では各授業科目が DP (学位授与の方針) のどの部分に関連しているかを、個々のシラバスで明示している。アンケートでは、実際に授業を受けた学生が感じ取った DP との関連性について調査を行った。

- (3) また、本学では改組に併せ、教職員が遵守すべき職務へのスタンスを「山野インストラクションスタンダード」としてまとめている。教員の授業への取組姿勢について、同スタンダードに則っているかについてもアンケート調査を実施した。
- (4) 今年度も一部の授業をオンライン形式で行っている。社会全体はコロナ禍以前と同じ行動制限の無い状態に戻っているが、将来的に強力な感染症対策が再度求められる可能性にも留意して、オンライン授業のノウハウ継続の観点からアンケート調査を実施している。

(5) 設問

【教員評価】

- ①教員はDPを踏まえて、到達目標を明確に示しましたか
- ②教員は始まりと終わりに授業の振り返りを行いましたか
- ③教員は学生が自ら考え、そして質問や意見を述べられるような問いかけ（なぜ？どうして？）を行いましたか
- ④教員は学生の学習意欲をより一層向上できるように働きかけましたか
- ⑤教員は授業時間外の学習活動（宿題、予習・復習、関連の学習）について、具体的に指導しましたか
- ⑥この授業で活かす場面が多かった能力は以下のどの項目ですか？（3項目まで）
DP1（知識・技能）、DP2（主体的行動力、DP3（課題解決力）、DP4（多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力）、DP5（日本の伝統文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力）、DP6（美しく生きる力を実践できる能力）
- ⑦この授業の中で身についたと感じることは以下のどれに当てはまりますか？
（3項目まで）
DP1、DP2、DP3、DP4、DP5、DP6
（DPの内容は前項と同じ）

【学生自己評価】

- ⑧あなたは授業時間内の学習活動（質問、発言、調査、自習など）に積極的に参加しましたか？
- ⑨あなたはこの科目1回の授業に対し、どれくらい宿題（課題やレポート提出など）、予習・復習（教科書の内容確認・メモやノートの整理等）、あるいは関連の学習（実技自主練習、書籍・新聞・広告・雑誌・インターネット等の閲覧・検索、TV・動画・映画の視聴に係る時間、日常生活行動を含む）を行いましたか？番号で回答してください。
0、しない 1、2時間未満 2、2時間～4時間程度 3、4時間以上
この授業の感想や意見、教員へのメッセージなどを、必ず3つ以上ご記入ください。

【オンライン授業評価】

- ⑩教員はノートをとるタイミングや、画面の共有の切り替えなど、あなたの作業の状況を確認して授業が進んでいましたか？
- ⑪教員は画面を通して声がけなどによりコミュニケーションを取るなど、双方向の授業を意識していましたか？
- ⑫教員はZOOMの機能を活用し、わかりやすく授業を進めていましたか？
- ⑬あなたはクラスルームにおいて、課題提出や資料閲覧ができていますか？

2. アンケート結果

(1) 授業内容と学生自身の授業態度への評価

●美容総合学科 1 年生

・教員への評価は、5 項目とも平均で 3.4～3.5 で概ね良好であった。また学生自身の授業態度も平均 3.2 であり、まずまずの水準であった。

演習、講義、実習という形態別評価では昨年度と同様、演習の評価が高く、以下実習、講義という順であったが、大きな差は見られなかった。

一方、学生自身の授業態度は実習と演習が 3.2 と高く、以下講義 3.1 の順であったが、こちらも授業形態別の差はあまり大きくなかった。

・個別科目では、昨年度まであった教員評価が平均 3.0 未満のものがなくなり、全科目で平均 3.0 以上を確保した。

また学生自身の授業態度では、33 科目中以下の 3 科目で 2 点台を記録したが、昨年度比大幅改善している。(4 年度後期は 32 科目中 9 科目が 2 点台)

学生のモチベーションアップに注力いただいた成果と考えられる。

【○パートナーシップ心理学 2.8、○ビューティー栄養学 2.8、○キャリアデザイン 2.9】

●美容総合学科 2 年生

・教員への評価は、5 項目とも平均で 3.4～3.5 で 1 年生と同様、概ね良好であった。また学生自身の授業態度も平均 3.2 であり、まずまずの水準であった。

授業の形態別評価では実習、演習の順で高く、講義がこれに続く評価であったが、大きな差は見られなかった。

・学生自身の授業態度は実習 (3.3) が高く、以下演習 (3.2)、講義 (3.1) の順となったが、こちらも授業形態別の差はあまりなかった。

・個別科目では次の 2 科目で教員評価が平均 3.0 未満であり、今後の改善を望みたい。

○ゼミ II 2.76、○伝承美 2.88

・また、学生自身の授業態度では 33 科目中 9 科目で 2 点台を記録 (27%) しており、モチベーションアップの働きかけが必要である。

特に教員評価の低かった○ゼミ II と○伝承美 については学生自身の意欲 (双方とも 2.6) にも陰りが見られるので、授業運営に注意が必要と考える。

(2) 予習復習時間

本学では 1 単位 30 時間の授業を基本としているので、大学設置基準に定める 1 単位 45 時間の学修時間を確保するためには、1 回の授業に対し最低 1 時間の予習・復習が必須である。予習復習時間の目安はシラバスに明記されており、単位の実質化に向けて、学生への指導強化が必要である。

●美容総合学科 1 年生

1 回の授業（2 時間）に対し予習復習時間ゼロの割合は、演習 26.6%、講義 14.4%、実習 10.0%と不芳ではあるが、前年度後期よりは改善している。

2 時間未満の層は演習 61.7%、講義 64.4%、実習 63.3%と大半を占めており、このマス層の学習時間を増加させることが課題である。一方で 2 時間以上の割合は演習 11.8%、講義 21.5%、実習 26.8%と相当数いることが確認できた。

以下の、授業 30 時間で 2 単位を与える科目の担当教員には、一段と厳しい指導をお願いしたい。単位の実質化には 1 回の授業（2 時間）に対し、4 時間の予習復習が必要であるが、該当 6 科目のうち特に 3 科目（※）は全く不足している状況。

該当科目は以下のとおり

科目	自習時間 0	2 時間未満	2～4 時間	4 時間以上
パートナーシップ心理学※	28%	67%	5%	0%
ビューティー栄養学※	26%	63%	9%	2%
ヘルスケア概論※	18%	64%	11%	7%
ファッショントレンド心理学	9%	67%	20%	5%
プライマリー栄養学	4%	54%	32%	11%
頭が良くなるニュースの見方	0%	76%	18%	6%

●美容総合学科 2 年生

1 回の授業（2 時間）に対し予習復習時間ゼロの割合は、演習 33.9%、講義 19.9%、実習 17.6%と 1 年生以上に不芳。

2 時間未満の層は演習 48.3%、講義 62.2%、実習 57.2%と大半を占めており、1 年生と同様、この層の学習時間を増加させることが課題である。一方で 2 時間以上の割合は演習 17.8%、講義 17.9%、実習 25.3%と相当数いることが確認でき、特に実習に熱心に取り組んでいる学生が確認できる。

以下の、授業 30 時間で 2 単位を与える科目の担当教員には、一段と厳しい指導をお願いしたい。単位の実質化には 1 回の授業（2 時間）に対し、4 時間の予習復習が必要であるが、該当 5 科目のうち 3 科目（※）は全く不足している状況。特に美容心理学では 4 割近くの学生が全く自習を行っていない。

【美容総合学科 2 年生】

科目	自習時間 0	2 時間未満	2～4 時間	4 時間以上
美容心理学※	38%	56%	6%	0%
総合ブライダル学※	30%	61%	9%	0%
好きをひも解く心理学 ※	25%	75%	0%	0%
生体学	13%	38%	42%	8%

アクティブヘルスプロ モーション	7%	85%	4%	4%
---------------------	----	-----	----	----

(3) オンライン授業

●美容総合学科 1 年生

該当科目は 6 科目のみであるが、全ての科目で教員評価 3.0 以上を確保しており、問題無い水準である。

●美容総合学科 2 年生

該当科目は 5 科目のみであるが、全ての科目で教員評価 3.4 以上を確保しており、非常に良好な水準である。

オンライン授業はコロナ禍での対応として始めた対応であるが、教員側、学生側ともに習熟度を上げており、このレベルを維持していくことを期待したい。

(4) DP との関連性について

本学では、授業科目ごとに DP との関連性をカリキュラムマップと個別のシラバスに明示している。

学生の実感（アンケート結果）との一致はゼミを除く全科目で 1 年生 92%、2 年生 72% と概ね共通理解が得られている。

一方、ゼミに関しては学生の意識は「DP2 主体的行動力」に向いているケースが大半。

1 年生、2 年生とも 8 講座中 7 講座で主体的行動力が身に付いたと回答している。

本学としては「DP4 多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力」が身に付くとしているが、学生の意識とギャップがある印象。

これは令和 4 年度後期のアンケート調査結果でも明らかになっている。

今後、学内での議論に期待したいが、言わば‘消費者’にあたる学生の意識を尊重し、DP との関連性を見直すことも検討の余地があると考ええる。

以上

2023年度前期 美容総合学科1年生授業アンケート集計結果

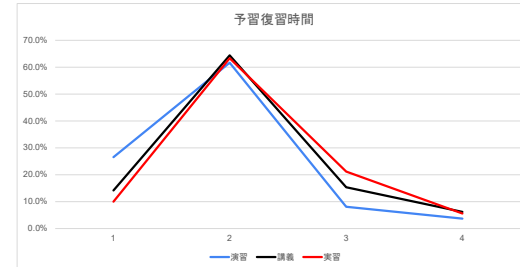
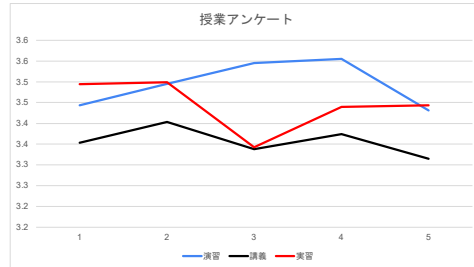
1 ※0～4段階評価(問1～5、問8、問11～13)

[illegible]

※水色でハイライトしている科目はオンライン授業の科目です。

※関連が最も強いDPをピンクでハイライトしています。

※学生の回答が最も多かったDPのパーセンテージを赤色太字でハイライトしています。

[illegible]

2023年度前期 美容総合学科2年生授業アンケート集計結果

1 ※0～4段階評価(問1～5、問8、問11～13)

[illegible]

※水色でハイライトしている科目はオンライン授業の科目です。

※関連が最も強いDPをピンクでハイライトしています。

※学生の国書が最も多かったDPのパーセンテージを赤色太字でハイライトしています。

[illegible]